

熊と共存（クマの皮剥ぎ被害予防の試み）

大間営林署 森林官 ○傳 法 和 政
 総務係員 古川 博哉

1 はじめに

当営林署の管轄する国有林は下北半島の西部（北通り）に位置し、ツキノワグマの生息が確認されており、これまでも人為被害及びヒバ立木の皮剥ぎ被害が発生しているが、近年、人工林のスギ立木にも皮剥ぎ被害が見受けられるようになり、その防止対策に苦慮していたところ、平成5年「森林防疫 N07:クマハギ被害とその防除」及び平成6年12月「林業技術：クマによる森林の被害」と題して、その被害内容や対策が掲載され、その中で対策としている「スギ樹幹へのテープ巻き付け」を当営林署においても試行し、クマの皮剥ぎ被害防除の対策を検討するものである。

2 クマの皮剥ぎ被害状況

- (1) 佐井森林経営センター管内（11,523ha）における被害はヒバの生育する林地ではほぼ見受けられ、図-1はヒバ50%以上の区域（約2,600ha）を表わしているが、クマの皮剥ぎ被害の見られる区域でもある。
- (2) クマ皮剥ぎ被害の状況であるが、写真-1は天然林におけるヒバ立木の皮剥ぎ被害で平成5年に被害をうけたものである。
 写真-2はスギ人工林におけるスギ立木の皮剥ぎ被害で平成5年頃に被害を受けたものである。
- (3) 皮剥ぎ被害による材としての影響は、写真-3は数十年前に被害を受けたヒバ立木で、造材した後の状況は写真-4、写真-5のとおりヒバは耐朽性が高いと言われるが、皮が巻き込んでいる厚さと腐朽している厚さがほぼ同じである。

3 クマに関する地元猟師（マタギ）の話

表-1

①クマは何故皮を剥ぐのか	食べ物代わりに剥ぐ
②子グマに飲ませると言うが	母乳代わりに飲ませるし、親も飲む
③皮は剥ぐ時期と時間は	3月下旬から4月頃で、夜昼問わず剥ぐ
④どんな樹種でも剥ぐのか	ヒバとスギの皮を剥ぐ
⑤小柴が多く、薄暗い所に被害が多いが	小柴の多い所を好んで活動する
⑥佐井村の山に何頭ぐらい生息するのか	20頭ぐらいいる
⑦クマの活動するコースはあるのか	夏の間は各沢を中心に活動しているが、冬になると冬眠のために大畑境の山中に移動する

ヒバ林・被害区域図



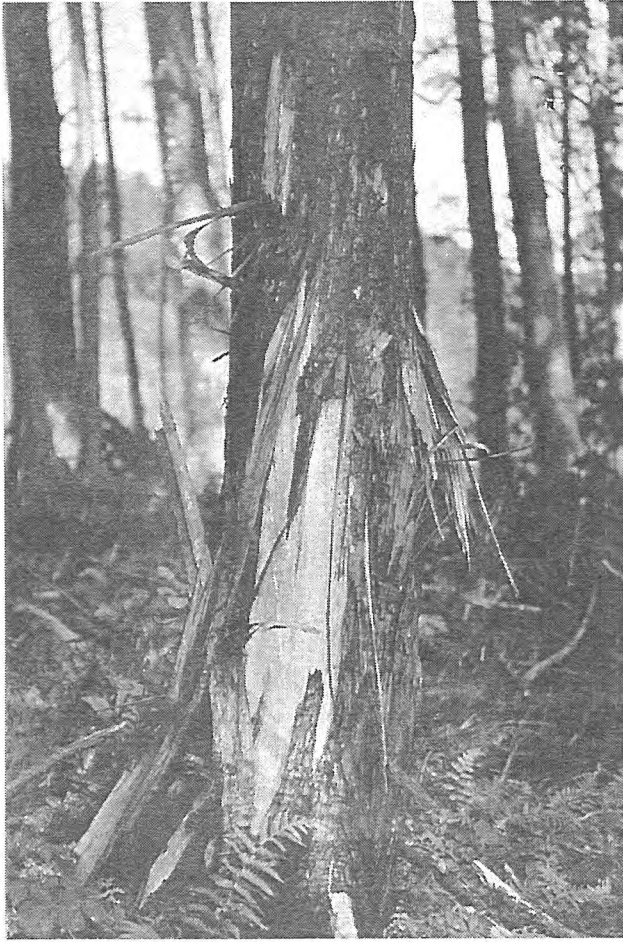


写真-1 天然林におけるヒバ立木の皮剥ぎ被害

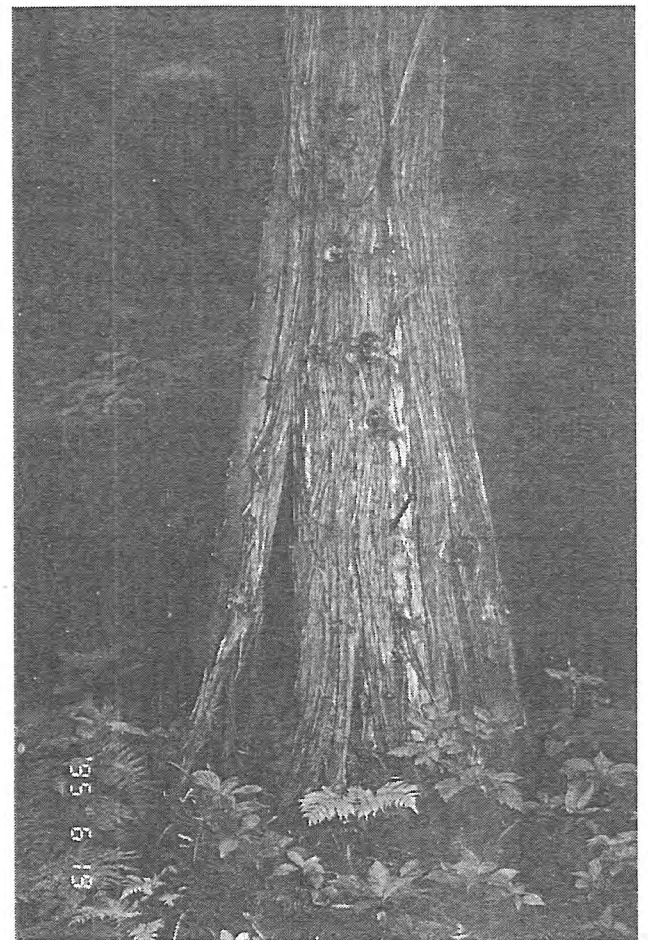


写真-2 スギ人工林におけるスギ立木の皮剥ぎ被害

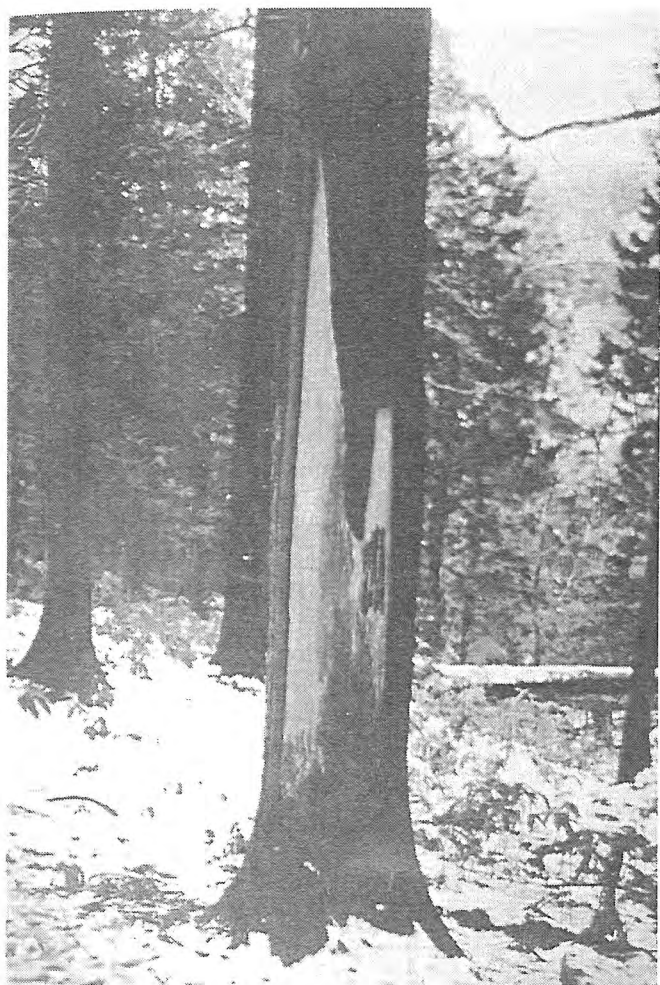


写真-3 数十年前に被害を受けた
ヒバ立木（天然林）

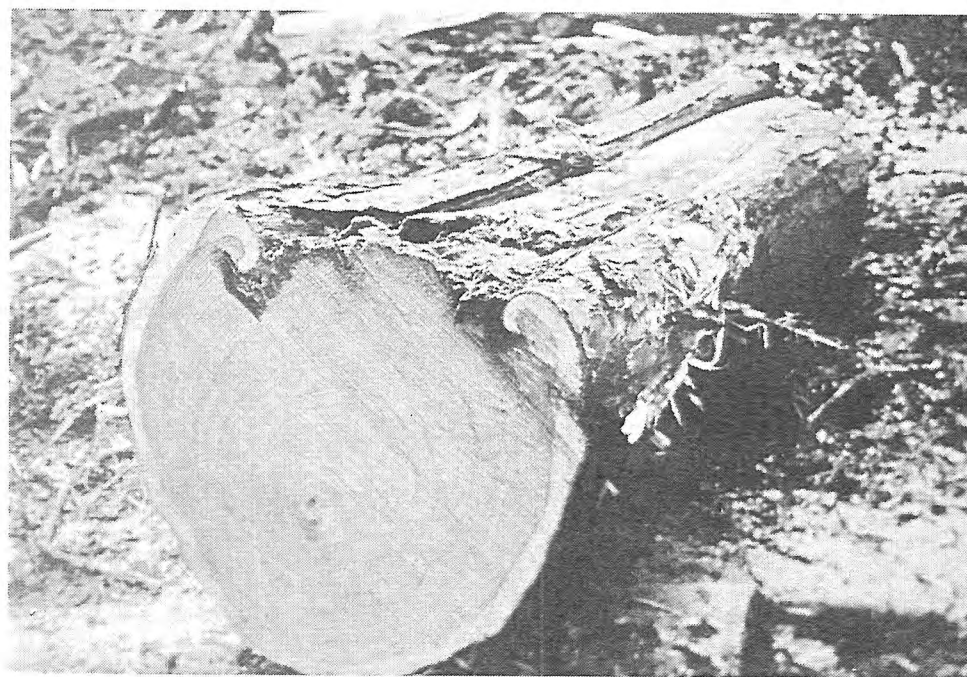


写真-4 被害を受けたヒバの根元一番玉

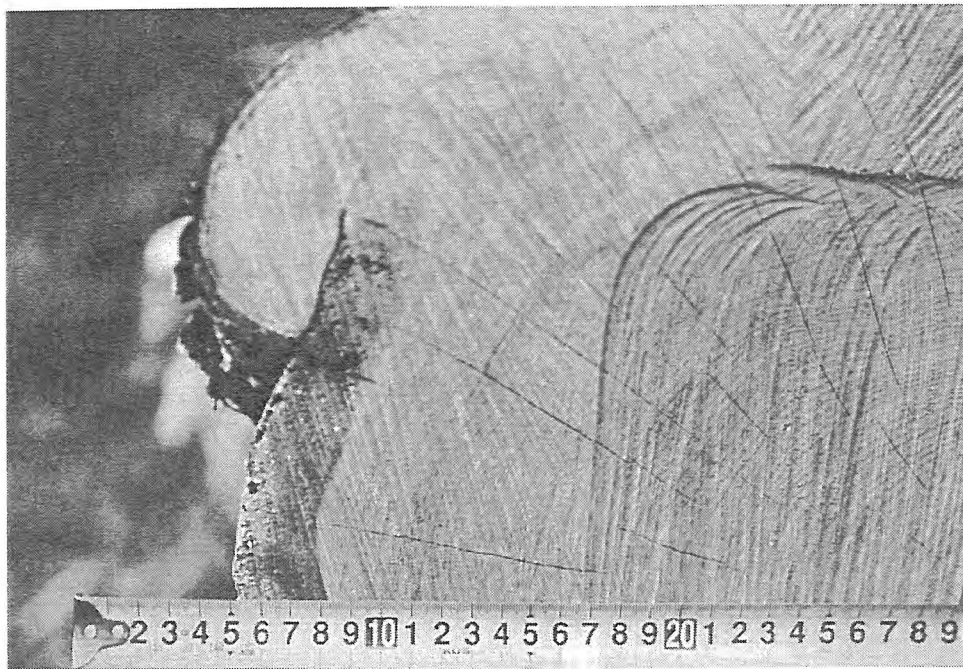
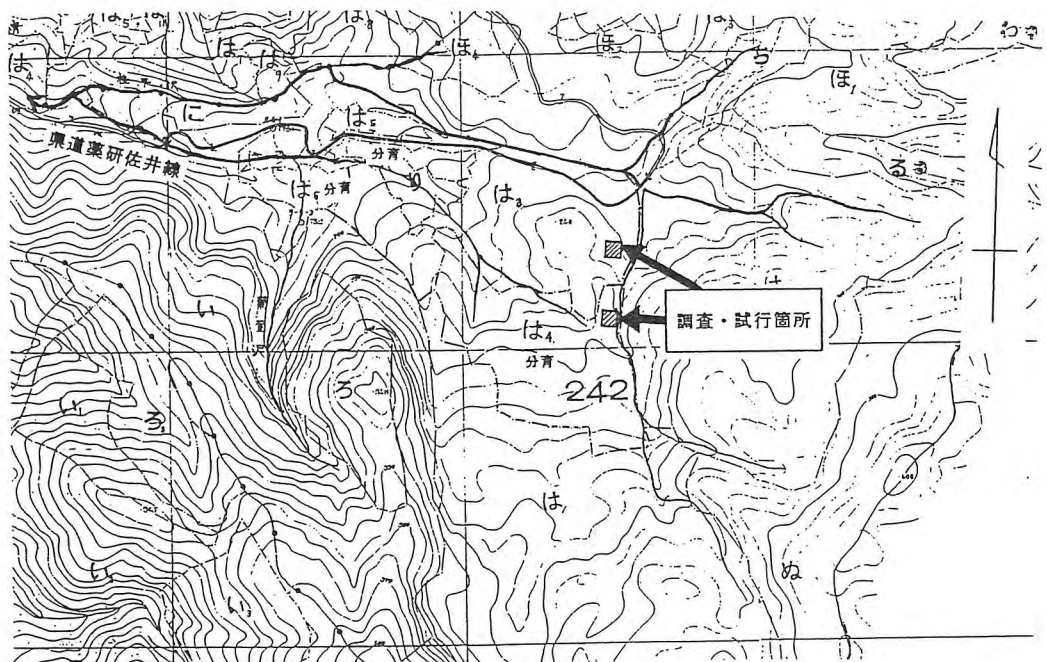


写真-5 ヒバ被害木の皮の巻き込みと腐れ

図-2

調査・試行箇所位置図



4 調査・試行箇所の設定

調査・試行箇所は、図-2で示すとおり古佐井森林事務所部内、古佐井山 242林班は₃（被害の多い箇所）、は₄（被害の少ない箇所）小班を選定し、0.04ha（20m×20m）のプロットを設定のうえ、「皮剥ぎの調査」及び「スギ樹幹へのテープ巻き付けの試行」を実施した。

なお、古佐井山 242林班は₄ 小班は昭和62年に分収育林を契約したスギ人工林である。

5 調査・試行の内容

平成7年6月19日、プロット内の全スギ立木について皮剥ぎの有無等を調査し、その中で形質の良好な立木を選定し、樹幹へのテープ巻き付けの試行を実施した。

巻き付けには、荷物梱包等に使用されるビニール製のヒラテープを使用した。

その内容は表-2のとおりである。

表-2 調査・試行の内容

● 242林班は₃ 小班

樹種	無被害 本数	被害部位別本数				皮剥ぎ の長さ	合計 本数	巻き付 け本数	備考
		根元山側	根元谷側	胸高部	計				
スギ	25	9	3	0	12 (32%)	0.5 ~ 2m	37	22	2~10年位前に被害を受けた

● 242林班は₄ 小班

樹種	無被害 本数	被害部位別本数				皮剥ぎ の長さ	合計 本数	巻き付 け本数	備考
		根元山側	根元谷側	胸高部	計				
スギ	51	1	0	0	1 (2%)	1m	52	27	

写真-6は、242林班は₃ 小班内に設定したプロットにおけるスギ立木の皮剥ぎ被害である。

写真-7、8は242林班は₄ 小班内に設定したプロットにおける「スギ樹幹へのテープ巻き付けの試行」状況である。

写真-9、10は242林班は₃ 小班内に設定したプロットにおける「スギ樹幹へのテープ巻き付けの試行」状況である。

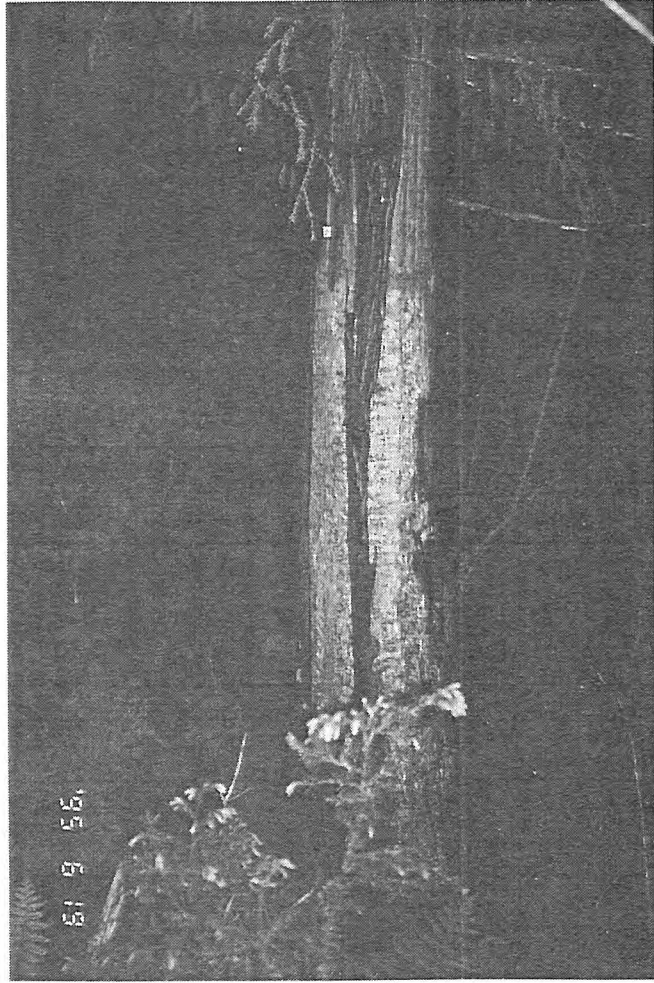


写真-6 242林班は₃ 小班のプロット内における
スギ立木の皮剥ぎ

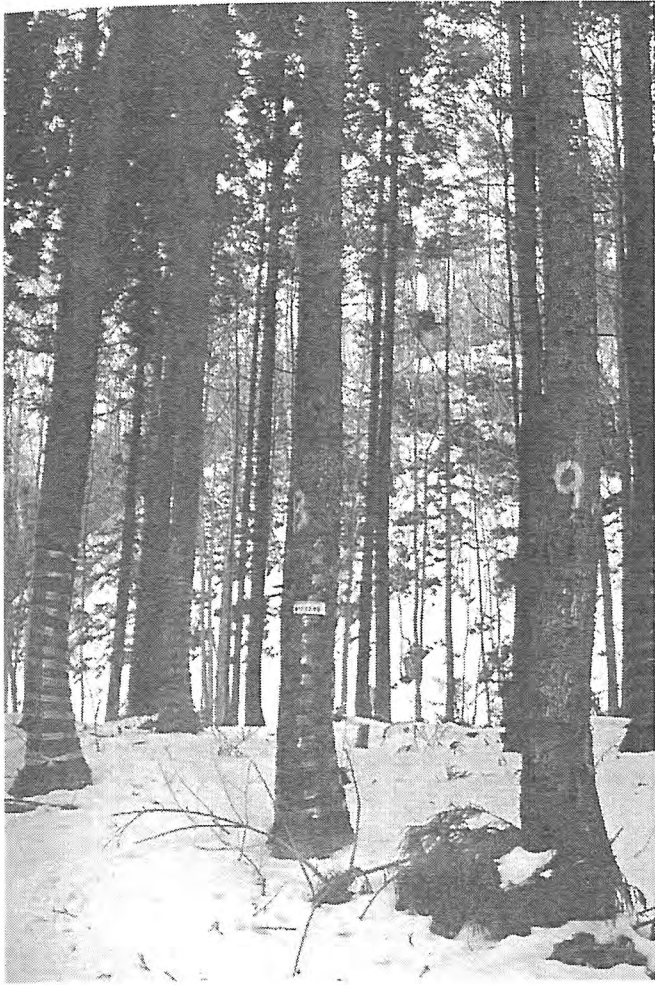


写真-7

写真-7・8

242林班は、小班内プロット
における「スギ樹幹へのテー
プ巻き付けの試行」



写真-8

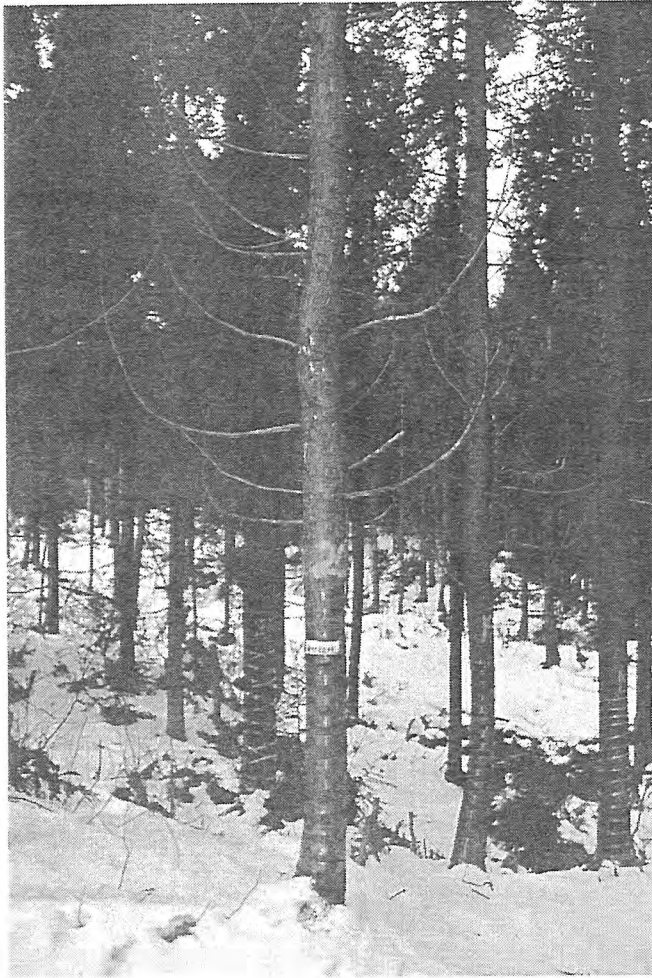


写真-9

写真-9・10

242林班は、小班内プロット
における「スギ樹幹へのテー
プ巻き付けの試行」



写真-10

6 調査・試行のまとめ

「クマの皮剥ぎ被害の調査」及び「スギ樹幹へのテープ巻き付けの試行」を実施した
が、つぎの問題点が浮かび上がった。

- (1) 9月8日、12月14日の調査においては巻き付けしたテープにはクマによる損傷等
変化は見られなかったが、巻き付けの時期。
- (2) スギの成長に伴うテープの損傷が考えられるが、その期間（年数）。
- (3) ヒラテープ自体の耐用年数。
- (4) 被害の予想される林分の把握方法。
- (5) 分収育林箇所への被害の懸念。

以上のことを踏まえ、クマと共存しながらの林業経営が可能となるよう平成8年度に
おいても引き続き経過観察を行い、新たな「クマの皮剥ぎ被害防除の対策」の検討に取
り組むこととする。